

鳥取市中心市街地活性化基本計画 (計画期間 19年11月～25年3月)

【中心市街地を巡る状況】

- 近年、大規模小売店舗の郊外立地により、中心市街地の商業機能が衰退。
- 核家族化等による居住人口の減少により、地域コミュニティの弱体化等まちの魅力が低下。
- 公共・公益・業務系が中心のまちの特徴である平日のにぎわいが大きく減少。

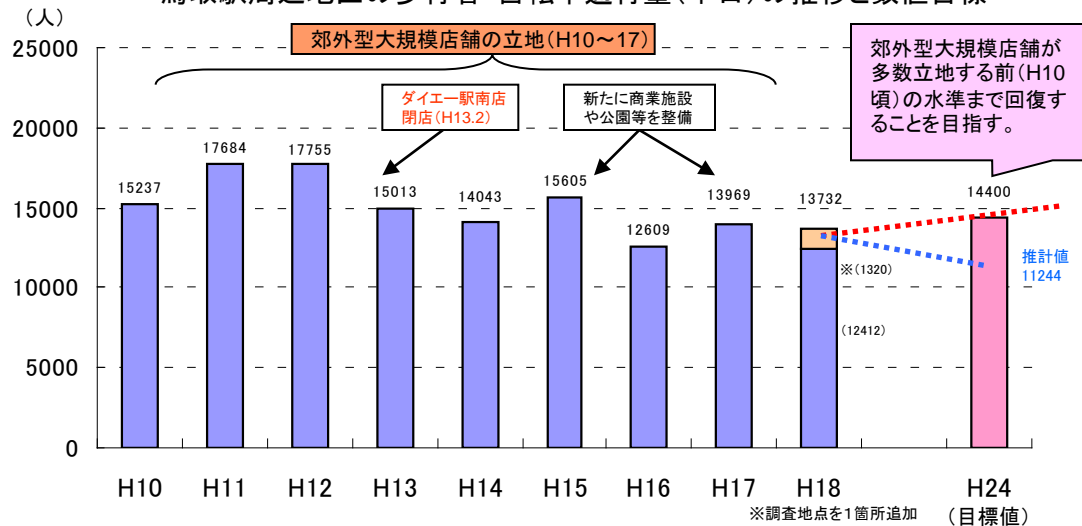


- 小売販売額の減少
(H9: 504億円 → H16: 328億円(▲35.0%))
- 居住人口の減少
(H9: 13,101人 → H19: 12,268人(▲6.4%))
- 歩行者・自転車通行量(平日)の減少
(H10: 15,237人 → H18: 12,412人(▲18.5%))

【目標】

目標	指標	現況値	目標値(H24年)
住みたいまち	居住人口	12,268人 (H19年)	12,800人 (4%増)
行きたいまち	鳥取駅周辺地区(7地点)の歩行者・自転車通行量(平日)	13,732人 (H18年)	14,400人 (5%増)
	鳥取城跡周辺地区(3地点)の歩行者・自転車通行量(平日)	1,715人 (H19年)	1,800人 (5%増)
	空き店舗数	55店舗 (H19年)	46店舗 (16%減)
ふるさとを感じるまち	文化施設の入込み客数	150,984人 (H18年)	169,000人 (12%増)

鳥取駅周辺地区の歩行者・自転車通行量(平日)の推移と数値目標



唱歌「ふるさと」発祥のまちとして、まちの良さを大事に思う意識をもった大学生等の若者が中心となって一体感を持ったまちづくりを進めることにより、地域コミュニティの再生を目指し、まちの魅力を高める。

鳥取市中心市街地活性化基本計画の事業概要

行きたいまち

○鳥取産業会館を**中心市街地内**で建替。新たに**地域交流ホール**を増設し、にぎわい交流機能を強化。



整備後のイメージ図

○鳥取生協病院を**中心市街地内**で移転・拡充し、旧病院ビルを**健康福祉施設**として再生。



現況



整備後のイメージ図

○空き店舗を活用し、**高齢者等の心と体の健康づくり施設**を運営。



お笑い健康道場

○空き店舗の利活用と若手**商業者育成**を推進。

(卒業生の開業率: 69%)



チャレンジショップ事業

○物産観光センター跡ビル等を**商業ビル等**として再生。

○中心市街地内の移動手段として、**大学と協働で廃食用油を活用し環境に配慮した循環バス**くる梨の**運行ルート改善**、**レンタサイクル**の活用等、**各拠点間の回遊性を促進**。



100円循環バス「くる梨」

ふるさとも感じるまち

○童謡・唱歌とおもちゃの**博物館**でのファミリー向けの**イベントの拡充**や**隣接地の公園化**。



わらべ館

○空き店舗を活用し、**合併地域も含めた地域特産品の販売拠点**として再生。



鳥取えももん蔵

○**中山間地域の農産品・特産品**を中心に販売する**朝市**。



いなばのお袋市

○**大学生が管理する江戸時代の商家**での**地域の文化発信機能**を強化。



高砂屋

○**大学と商店街が協働し**、小学生等の**子供向けイベント**を開催。

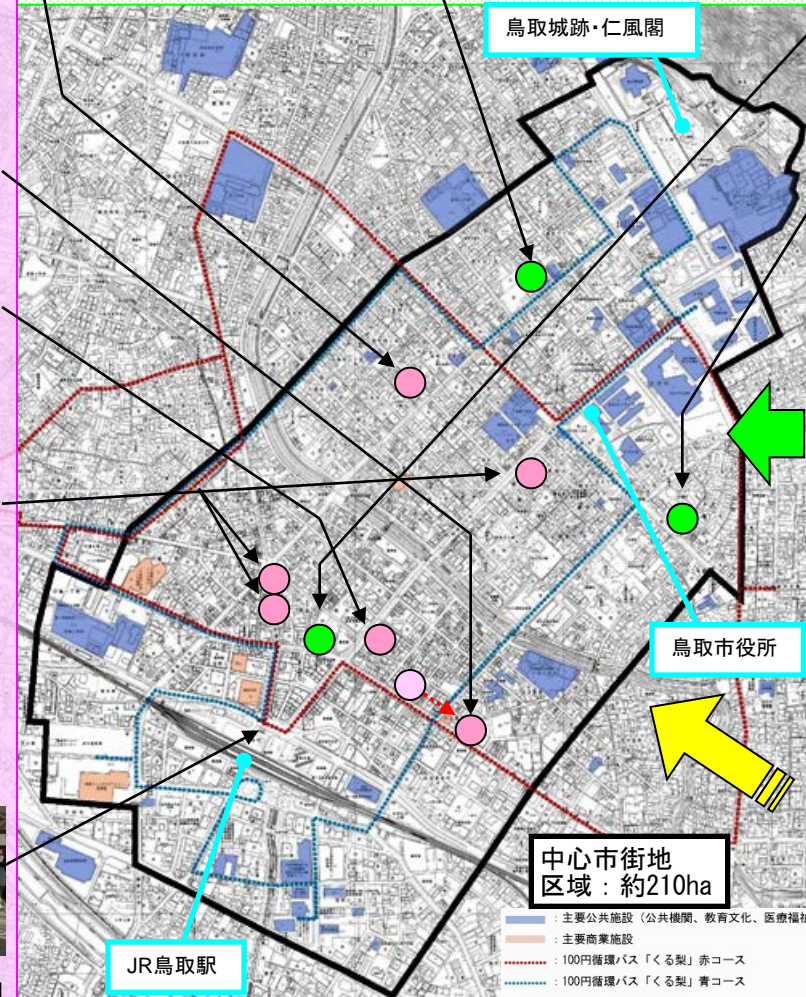


因幡の手づくりまつり

○**大学と商店街が連携し**、商店街に流れる**心地よい音楽(音空間)**を**研究**中。



若桜街道SSM(ショッピング・ストリートミュージック)社会実験



住みたいまち

○**既存建物のコンバージョン**、**共同建替え**。

○都市再生モデル調査事業を活用した**住宅市街地総合整備事業**の推進。

○**低未利用地**を活用した**民間集合住宅整備**の推進。